

容量市場設立にあたっての論点 (弊社見解)

2017年10月4日
株式会社Loop

区分	詳細内容
<p style="text-align: center;">総論</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国全体として、コスト効率の高い新設電源の設置を促し系統全体の経済性を高められるような方向性は妥当だと考える。 ・制度移行期に規模の小さい小売電気事業者に不利益が出ない配慮をお願いしたい。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">懸念事項</p>	<p style="text-align: center;">① 大幅なコスト増にならないか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状の卸電力市場での調達原価(kWh価値、可変費ベース+スパイク)が著しく高まることのないよう、取引価格の監視体制を強化すべき。 ・事業者間での相互監視などでその透明性を高めることはできないか。
	<p style="text-align: center;">② 制度移行時の事業予見性リスク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制度移行時においては、事業者にとってはkW価値が単純に追加コストとなり、事業の存続リスクとなる可能性がある。 ・小売サイドも経過措置をとるなど、事業予見性リスクを軽減する方向を検討すべき。
	<p style="text-align: center;">③ 将来の確保容量の流動性を持たせたい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特にみなし小売以外の小売電気事業者は規模が小さく、4年後の容量の見通しを精緻に見積もることは困難。 ・省エネ・DR等の技術革新などで、必要kWの変動（減少）は想定できる。 ・半年~1年後等、受渡に近い断面で必要容量変動時には取引を許容していただきたい。
	<p style="text-align: center;">④ 実態のない容量の取引がないような設計を</p> <ul style="list-style-type: none"> ・容量は取引したが、発電能力がない電源がでないようにする現状の議論は総論として賛成。 ・一方、水力、原子力などのベース電源や、以下⑤であげる再エネのことを考慮すると、一律「要件=ニーズがある際に発電する状態とする」とするのは難しいのではないか。 ・ベースはベースロード電源市場、ミドル以上は現勉強会での整理、再エネは別個の整理とすべき？
	<p style="text-align: center;">⑤ 再エネ電源の扱い (FIT/nonFIT)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状のFIT制度との整合をとるためには、kWh価値のみで取引することとしているFIT電源は除外すべきと考える。 ・④にあげたように、不安定な太陽光・風力（ただし、nonFIT）の容量は現状議論されている要件（リクワイアメント）を満たすことは困難と考え、個別での対応が必要。 ・発電事業者が存在しない発電所分は発電BG主体者を入札者とするなど、実務面の検討が必要。